

Competency model for public health nurses working on tobacco control in local governments in Japan: A qualitative study

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060009

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1529022024

氏名 道林 千賀子

論文審査員

主査(教授) 塚崎 恵子

副査(教授) 大桑 麻由美

副査(教授) 表 志津子



論文題名 Competency model for public health nurses working on tobacco control in local governments in Japan: A qualitative study
(日本における自治体のたばこ対策に関する保健師のコンピテンシーモデル：質的研究)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

日本では保健師が自治体のたばこ対策の主要な役割を担っている。しかし、たばこ対策の推進に必要な保健師のコンピテンシーは同定されていない。本研究は、日本における自治体のたばこ対策の推進に関する保健師のコンピテンシーの構成を明らかにすることを目的とした。たばこ対策の 9 か所の先進自治体のエキスパート保健師 12 名を対象として、たばこ対策を推進した事例に関して行動結果面接法に基づく半構造的インタビューを行った。質的記述的分析を行い、コンピテンシーの能力要件ごとに動機、態度、スキルに分け、氷山モデル (Spencer ら, 1993) を参照してカテゴリを構造化した。

参加者の保健師経験平均年数は 22.7 年、たばこ対策の担当経験平均年数は 4.3 年であった。自治体のたばこ対策の推進に関する保健師のコンピテンシーは、「動機」は<たばこ対策の開拓と変革への強い動機づけ>など 3 つ、「態度」は<保健師の専門性とたばこ対策担当者の責務へのコミットメント>など 3 つ、「スキル」は<たばこ対策の必要性を気づかせるためのアドボカシーを実践する>など 8 つが抽出された。コアカテゴリとして、『たばこ対策の開拓と変革に向けた強い動機と態度を基盤として、たばこの害のない地域を目指してアドボカシーを実践し、調整・交渉術を駆使しながらパートナーシップ志向の効果的なたばこ対策を展開し、マネジメントする能力』が同定された。

【審査結果の要旨】

本研究は氷山モデルを用いてたばこ対策を推進するための、保健師に求められるコンピテンシーの構成を初めて明らかにした。本研究成果は、日本のたばこ対策のみならず健康施策に有用な知見を示しており、能力指標開発の理論的基盤としての活用が期待される。

公開審査では、対象者の選定方法、調査内容の妥当性、結果の汎用性と特異性、地域性の考慮、研究成果の還元に関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。